

麻酔科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー

浜松医科大学医学部麻酔蘇生学講座 准教授 加藤孝澄

(日本麻酔科学会指導医、日本心臓麻酔学会専門医(暫定))



麻酔科専門医資格を持つ医師は2014年4月現在、全国で7118名と欧米の1/4~1/5という少なさです。医療が高度化・専門化するにつれ、麻酔科専門医はますます必要とされてきます。浜松医大附属病院の麻酔科は、①手術室での麻酔・全身管理および術後疼痛管理、②集中治療室(ICU)での重症患者管理、③ペインクリニックと無痛分娩の“三本柱”で構成されています。

①は、大学附属病院特有の高度な手術や、重症患者に対応した麻酔・全身管理、②では、大手術後や救急外来経由の重症患者、さらには病棟で急変した重症患者を収容し、全身管理を行っています。③は帯状疱疹後神経痛、神経障害性疼痛、術後疼痛症候群などの難治性疼痛患者を中心に治療しています。もちろん、頭痛、腰痛、重症肩こりなどの患者さんも対象です。

さらに特徴的なこととして、硬膜外ブロックを使用した“無痛分娩”にも積極的に取り組んでいます。硬膜外カテーテルの留置から分娩まで麻酔科専門医が疼痛管理にあたっています。

このような麻酔科診療を背景に、県内の多くの病院と連携した研修プログラムを組んでおります。ぜひ、我々の研修プログラムに参加し、各々の個性、特色を活かして日本麻酔科学会認定専門医取得に向けた研修を行ってくださることを期待しております。

2 目的

日本麻酔科学会認定専門医の取得を目指すとともに、研修環境が充実した県内の基幹病院・浜松医科大学関連病院等の複数の病院を経験することで、周術期管理、侵襲制御、疼痛管理等における優れた知識と技術、およびコミュニケーション能力を有し、チーム医療を中心的に担える質の高い専門医の養成を目指す。

3 目標

日本麻酔科学会認定専門医取得には、各領域における最少麻酔経験数が規定されている。本プログラムでは、各領域における最少麻酔経験数を全て満たし、専門医試験受験資格を得る。

4 特徴

- ① 本プログラムの研修期間は48ヶ月である。以下に述べる病院群をローテートし、最低3ヶ所以上研修することとする。

- ② 浜松麻酔・集中治療研究会、西部緩和医療・ペインクリニック研究会など盛んな研究会活動が行われている。

5 研修カリキュラム

本プログラムの研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義、医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率、リスクの種類、安全指針、医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理、環境整備について理解し、実践できる。
- 2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響などについて理解している。
 - a) 自律神経系
 - b) 中枢神経系
 - c) 神経筋接合部
 - d) 呼吸
 - e) 循環
 - f) 肝臓
 - g) 腎臓
 - h) 酸塩基平衡、電解質
 - i) 栄養
- 3) 薬理学：薬力学、薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序、代謝、臨床上の効用と影響について理解している。
 - a) 吸入麻酔薬
 - b) 静脈麻酔薬
 - c) オピオイド
 - d) 筋弛緩薬
 - e) 局所麻酔薬

- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる。
 - a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価、術前に必要な検査、術前に行うべき合併症対策について理解している。
 - b) 麻酔器、モニター：麻酔器・麻酔回路の構造、点検方法、トラブルシューティング、モニター機器の原理、適応、モニターによる生体機能の評価、について理解し、実践ができる。
 - c) 気道管理：気道の解剖、評価、様々な気道管理の方法、困難症例への対応などを理解し、実践できる。
 - d) 輸液・輸血療法：種類、適応、保存、合併症、緊急時対応などについて理解し、実践ができる。
 - e) 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔：適応、禁忌、関連する部所の解剖、手順、作用機序、合併症について理解し、実践ができる。
 - f) 神経ブロック：適応、禁忌、関連する部所の解剖、手順、作用機序、合併症について理解し、実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。
 - a) 腹部外科
 - b) 腹腔鏡下手術
 - c) 胸部外科
 - d) 成人心臓手術
 - e) 血管外科
 - f) 小児外科
 - g) 小児心臓外科
 - h) 高齢者の手術
 - i) 脳神経外科
 - j) 整形外科
 - k) 外傷患者
 - l) 泌尿器科
 - m) 産婦人科
 - n) 眼科
 - o) 耳鼻咽喉科
 - p) レーザー手術
 - q) 口腔外科
 - r) 臓器移植
 - s) 手術室以外での麻酔
- 6) 術後管理：術後回復とその評価、術後の合併症とその対応に関して理解し、実践できる。
- 7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し、実践できる。
- 8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価、治療について理解し、実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し、実践できる。AHA-ACLS、またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し、プロバイダーカードを取得している。
- 9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序、治療について理解し、実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について、定められたコース目標に到達している。
 - a) 血管確保・血液採取
 - b) 気道管理
 - c) モニタリング
 - d) 治療手技
 - e) 心肺蘇生法
 - f) 麻酔器点検および使用
 - g) 脊髄くも膜下麻酔
 - h) 鎮痛法および鎮静薬
 - i) 感染予防

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理、医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM、統計、研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会、外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し、積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に、症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔、集中治療、ペインの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄も膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし、帝王切開手術、胸部外科手術、脳神経外科手術に関しては、一症例の担当医は1人、小児と心臓血管手術については一症例の担当医は2人までとする。

- ・小児（6歳未満）の麻酔 25症例
- ・帝王切開術の麻酔 10症例
- ・心臓血管外科の麻酔 25症例
（胸部大動脈手術を含む）
- ・胸部外科手術の麻酔 25症例
- ・脳神経外科手術の麻酔 25症例

6 研修病院群

浜松医科大学医学部附属病院

心臓血管麻酔専門医認定施設、集中治療医学会専門医研修施設、
ペインクリニック専門医指定研修施設

指導医：麻酔科

加藤孝澄（麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック）

牧野 洋（麻酔、ペインクリニック）

御室総一郎（麻酔、集中治療）

佐野秀樹（麻酔、脳神経外科麻酔、ペインクリニック）

秋永智永子（麻酔、産科麻酔）

谷口美づき（麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）

吉田香織（麻酔、周術期疼痛管理、ペインクリニック）

集中治療部

土井松幸（麻酔、集中治療）

小幡由佳子（麻酔、集中治療）

手術部

栗田忠代士（麻酔、胸部外科麻酔、マネジメント）

シミュレーションセンター

五十嵐 寛（麻酔、医学教育、ペインクリニック）

医療安全管理室

鈴木 明（麻酔、医療安全）

専門医：木村哲朗（麻酔、ペインクリニック）

川島信吾（麻酔、心臓血管麻酔）

成瀬 智（麻酔、産科麻酔）

加藤弘美（麻酔、集中治療）

内崎紗貴子（麻酔、産科麻酔）

柳 由紀（麻酔）



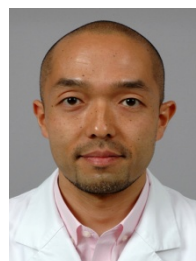
植田 広 (麻醉)
 小林賢輔 (麻醉)
 鈴木興太 (麻醉、ペインクリニック、緩和)
 朝比奈瞳 (麻醉)

1984年 麻醉科認定病院取得
 麻醉科管理症例 4126症例

	全症例	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻醉	135症例	105症例
帝王切開術の麻醉	183症例	153症例
心臓血管手術の麻醉 (胸部大動脈手術を含む)	157症例	127症例
胸部外科手術の麻醉	175症例	145症例
脳神経外科手術の麻醉	143症例	113症例

浜松医療センター

研修指導医 麻醉科指導医 高木佑芙紀 (2002年卒)
 麻醉科指導医 永田洋一 (2003年卒)
 麻醉科専門医 高田和典 (2008年卒)



2006年 麻醉科認定病院取得
 麻醉科管理症例 2100症例

	全症例	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻醉	80症例	40症例
帝王切開術の麻醉	45症例	20症例
心臓血管手術の麻醉 (胸部大動脈手術を含む)	70症例	35症例
胸部外科手術の麻醉	110症例	50症例
脳神経外科手術の麻醉	50症例	25症例

当院は病床数約 600 床の総合病院です。心臓血管外科、呼吸器外科などを含め年間約 2000 例の麻醉科管理手術症例があります。当院は浜松地区の 2 次、3 次救急を担う病院のひとつであり、また、周産期母子医療センターも有しています。これらを背景に、緊急手術を含め多彩な手術症例の麻醉管理を経験できます。院内各科間の連携も良く、循環器科、内分泌科、小児科など、各専門科の協力も得ながら周術期管理を行っています。

浜松労災病院（独立行政法人 労働者健康福祉機構）

研修指導医 麻酔科部長 木倉睦人（きくら むつひと）

平成元年卒 医学博士

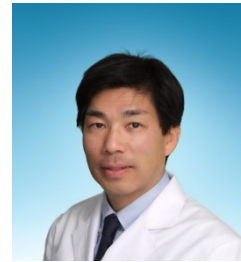
（専門分野）臨床麻酔学，周術期患者管理，集中治療医学
日本麻酔科学会指導医，日本集中治療医学会専門医，
日本心臓血管麻酔学会専門医

スタッフ医師 鈴木祐二 平成 19 年卒（日本麻酔科学会専門医）

嘱託医師 西野淳子 平成 13 年卒（日本麻酔科学会専門医）

1989 年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 800 症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	60 症例	20 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0 症例
心臓血管外科手術の麻酔	80 症例	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	40 症例	10 症例

平成 22 年に新築され、最新の医療機器を備えた新しい公的中核病院です。

浜松医科大学麻酔科医局の関連病院です（日本麻酔科学会認定病院、心臓血管麻酔専門医認定施設）。

日本麻酔科学会専門医に必須の技術・知識・経験の習得環境（下記の専門医研修向けマスタープログラム参照）を提供しています。当院での研修を歓迎いたします。

（実績） 全身麻酔： 793 件，脊椎・硬膜外麻酔： 228 件 （平成 26 年 1 月～12 月）

エコーガイド下 坐骨神経ブロック、大腿神経ブロック、腹横筋膜面ブロックなど実施

（麻酔科専門医研修マスタープログラム）

- ☆ 気管挿管マスター：気道確保、気管挿管、鎮静下ファイバー挿管，エアウエイスコープなど
- ☆ エコーガイド下中心静脈確保マスター ☆ 脊椎麻酔・硬膜外麻酔・伝達麻酔マスター
- ☆ 経食道心エコー（TEE）マスター、心臓血管麻酔フェローシップ（心臓血管麻酔専門医認定施設）

浜松医科大学医学部シミュレーションセンターと提携し、充実した臨床麻酔の教育を受けることができます。

★ 若手医師の症例報告、院内取組みへの参加、臨床研究などを奨励しています。

（実績）術後の疼痛管理への取組み（労働者健康福祉機構 病院機能向上研究費受諾）

日本心臓血管麻酔学会 最優秀演題賞受賞 佐藤恒久、鈴木祐二、川島信吾、他

浜松赤十字病院

研修指導医 麻酔科部長 小幡良次 (1994年卒) 日本麻酔科学会指導医

麻酔科副部長 高田浩太郎 (1996年卒) 日本麻酔科学会専門医

麻酔科医師 堀悦代 (2005年卒) 日本麻酔科学会認定医

2009年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 769 症例

	全症例	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	13 症例	13症例
帝王切開術の麻酔	0 症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	11 症例	11症例
脳神経外科手術の麻酔	8 症例	8症例

浜松北部に位置し、病床数 312 床、手術室 5 部屋、麻酔科管理は年間約 800 件です。災害拠点病院 (地域災害医療センター) として災害医療に重点をおいた総合病院です。心臓外科や小児外科はありませんが、常勤医は 46 人で科を超えた医師同士の横の繋がりを大切にしています。学会発表や研究会参加を積極的に行い、臨床診療の向上に繋がる環境を整えています。アットホームな総合病院勤務志望の方、派手好みでない方、是非当院へ。



JA 静岡厚生連 遠州病院

研修指導医 八角康裕 (1995年 浜松医科大卒)

指導医 浦岡雅博 (2001年 浜松医科大学卒)

専門医 鈴木かつみ (2001年 浜松医科大学卒)

2007年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 1400症例

	全症例	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	50症例	20症例
帝王切開術の麻酔	200症例	80症例
胸部外科手術の麻酔	20症例	10症例
脳神経外科手術の麻酔	80症例	30症例

浜松駅に最も近い総合病院です (病床数 400 床、手術室 6 室、ICU 4 床)。消化器・肝胆膵外科、血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、整形外科、産婦人科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、眼科、形成外科などの麻酔を担当しています。

当院の特徴としては、和気あいあいとした雰囲気の中で仕事ができる点や、外科系の緊急手術が多くあり、緊急手術対応の経験ができる点などです。また 2011 年 10 月より消化器病センターを開設したため、今後外科系の手術件数のさらなる増加が見込まれています。症例数も豊富で、常勤医四名 (指導医二人、専門医一人、認定医一人) で年間手術件数 3000 症例中、1400 症例の麻酔をこなしています。

初期研修医に人気がある病院で毎月研修医がローテーションしてくるため、初期研修医を介した他科との交流が盛んです。また自身の研修のみでなく、研修医の指導をする立場にもなり、麻酔科医に必要なマネジメント能力を磨く場にもなります。



聖隷三方原病院

研修指導医 麻酔科部長、手術部長 兼 副院長 高田知季（1983年卒）

日本麻酔科学会指導医、日本ペインクリニック学会専門医

金丸哲也（麻酔，ペインクリニック）

赤池達正（麻酔）

加藤 茂（麻酔）

藤本久実子（麻酔）

専門医：杉浦弥栄子（麻酔）

1985年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 3153症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	56症例	10症例
帝王切開術の麻酔	6症例	2症例
心臓血管外科手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	173症例	30症例
胸部外科手術の麻酔	356症例	70症例
脳神経外科手術の麻酔	66症例	15症例

注：帝王切開術の麻酔に関しては麻酔科が望めば症例を得ることが可能

浜松市北区に位置する病院です(病床数 934 床)。麻酔科は 1983 年より診療科として設けられ、周術期の麻酔管理の開始と同時にペインクリニックとしての外来診療も開始しました。

麻酔管理においては外科系（外科、消化器外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、脳血管内外科、心臓血管外科、産科、婦人科、耳鼻咽喉科・頭頸部甲状腺外科、泌尿器科、形成外科、皮膚科、眼科）全ての麻酔管理を行い、年間手術件数 6607 例のうちの 3080 例（2013 年度）と多くの周術期管理を行っています。特に救命救急センターを擁し緊急手術が多いのが特徴です。

ペインクリニックにおいては延べ受診者数 8479 例（2013 年度）と多くの症例の診療を行っています。慢性痛はもちろんのこと緩和支援治療科およびホスピス科との連携にて癌の痛みの対応（緩和ケア）も多く行っています。

多種多様な症例を経験でき知識および技術を高めるには良い病院です。また、医師間だけでなく院内他職種のスタッフとの連携もよく働きやすいのが特徴です。

磐田市立総合病院

研修指導医 高橋 浩 (1982年 浜松医大卒)

日本麻酔科学会指導医

日本ペインクリニック学会専門医

山口昌一 (1996年 島根医大卒)

日本麻酔科学会指導医



1998年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 1500 症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	30症例	15症例
帝王切開術の麻酔	20症例	10症例
胸部外科手術の麻酔	160症例	80症例
脳神経外科手術の麻酔	60症例	30症例

病床数500の高度医療を担う中東遠地区の急性期中核病院です。救命・救急センター、地域母子周産期センターを備え豊富な症例が経験できます。浜松市から一番近い自治体病院で、浜松医大の卒業生が多数勤務していることも特徴です。病院全体の研修医の教育を専任に担当する寺田雅彦先生が、家庭医の研修にも力を入れていますので若手医師に非常に人気があります。初期研修が終了した後、当院で後期研修を続ける研修医も多くいます。また、病院長は浜松医大第二外科出身の鈴木昌八先生が務められています。

2014年の年間手術件数は3904件で50%が全身麻酔症例でした。麻酔科常勤医は4名で麻酔科管理全身麻酔は1650件でした。心臓外科以外の全ての科の麻酔が経験可能です。一症例を一人の麻酔科医が担当し、並列麻酔、研修医単独の麻酔管理はしていません。

経営状態も安定している公立病院ですので安心して診療・研修に専念できます。

中東遠総合医療センター

研修指導医 山本洋子 (1982年 浜松医科大学卒)

医学博士・日本麻酔科学会指導医

副院長・麻酔科統括診療部長・手術センター長・

臨床研究管理室長

内山智浩 (1993年 浜松医科大学卒)

日本麻酔科学会指導医

麻酔科診療部長



専門医：三村真一郎 (麻酔, ペインクリニック)

平出恵理 (麻酔)

鈴木みどり (麻酔)

2013年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例2000症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	30症例	20症例
帝王切開術の麻酔	150症例	120症例

胸部外科手術の麻酔	20症例	15症例
脳神経外科手術の麻酔	120症例	80症例

掛川市立総合病院と袋井市立袋井市民病院が合併して2013年5月に開院しました。中東遠医療圏の基幹病院の一つで地域医療の中核を担います。病床数500床で手術室11室(2015年1月現在は9室稼働)、ICU・CCU10床で、外科系では心臓外科以外のすべての科があります。開院後1年で手術件数4000件、麻酔科管理症例2000件を超え、麻酔科管理症例は月200件となりました。又、救急センターに名古屋大学より専門医が4名派遣され、救急センターが充実したため、救急症例も増加するものと思われます。麻酔科常勤医は6名(2名は育児時短勤務)で、全員専門医以上です。他に浜松医大等からの応援を得て指導体制は充分です。今回、日本麻酔科学会の麻酔科専門医研修プログラムの整備にあたり、当院は基幹研修施設として浜松医科大学麻酔蘇生学講座のプログラムに参加することとなりました。症例が豊富ですので、プログラムの関連研修施設として選んでいただけたらと思います。院内保育園もあり子育て中の医師も働きやすい職場です。モットーは一例一例丁寧に麻酔をかけること。安心・安全な麻酔は当然のことながら術後鎮痛も考えた、個々の症例に最適な質の高い麻酔管理をめざします。

菊川市立総合病院

研修指導医 麻酔科指導医 木村 健 (1994年 浜松医科大学卒)

2011年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 738症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	7症例	2症例
帝王切開術の麻酔	28症例	10症例
胸部外科手術の麻酔	2症例	1症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例	0症例



静岡市と浜松市のほぼ中間に位置する病床数260床(精神科58床)、常勤医30人程の中東遠地区に属するコンパクトな施設です。

県内で最も医師不足エリアのため、地域のニーズに見合った医療の実践と特色を追求しています。具体的には、磐田、森町と共同での家庭医療科設立、県内自治体病院唯一の精神科入院施設を有しています。

麻酔科では、地域で完結できる医療をもとに、がん性疼痛を含めた疼痛管理(エコーガイド、透視下神経ブロック)と電気痙攣療法(mECT)を特徴とし精神科とともに新たな取り組みをしています。そのため、地域医療に関心があるまたは特殊な麻酔に関心がある方にお勧めです。病院運営の健全化をめざし、経営的にも単年度黒字を継続しています。

2014年の実績：手術件数 1642件。全身麻酔 788件。

藤枝市立総合病院

指導医 白石義人（1980年 浜松医科大学医学部卒）

高橋健二（1981年 東邦大学医学部卒）

酒井宏明（1990年 順天堂大学医学部卒）

専門医 山口裕充

1987年 麻酔指導病院取得

麻酔科管理症例 2082症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	84症例	20症例
帝王切開術の麻酔	127症例	30症例
心臓血管外科手術の麻酔	85症例	20症例
胸部外科手術の麻酔	114症例	30症例

駿河台という強固な地盤にある22科594床（手術室8室、ICU・CCU9床、NICU8床）の病院です。移植以外（腎臓は行なう）のほぼ全科の手術が行われ外科系各科との垣根も低くチーム医療が構築されています。また電子カルテや各種モニター類などハード面での設備も充実しています。

手術室は常勤医5名（指導医3名、専門医1名、他1名）と嘱託医（専門医）1名、非常勤医1～3名/日、ICU・CCUは主治医制（麻酔科関与あり）、ペインクリニック外来は予約制で運営しています。

新生児から高齢者、妊産婦、脊椎、腹（胸）腔鏡、心臓大血管、血管内手術（ステント、コイリング）など多種多様な麻酔管理やエコー下の手技も学ぶことを目標としており、習熟度に応じてステップアップできます。また、勤務環境改善のために変形労働時間制勤務を採用することで週4日の勤務も可能になり、17時以降や夜間土日祝祭日の緊急手術も無理なく対応できています。女性医師の変則勤務にも対応可能です。

静岡県立総合病院

指導医：横山順一郎（麻酔、ペインクリニック）
青嶋由紀江（麻酔、ペインクリニック）
渥美 和之（麻酔、ペインクリニック）
藤井 俊輔（麻酔、ペインクリニック、）
森本恵理子（麻酔、ペインクリニック、集中治療）
高良麻紀子（麻酔）



専門医：青木 善孝（麻酔）

1983年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 3730症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	105症例	50症例
帝王切開術の麻酔	125症例	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	110症例	50症例
胸部外科手術の麻酔	170症例	80症例
脳神経外科手術の麻酔	160症例	80症例

病床数 720 床、手術室 13 室（外来手術室 1 室、ハイブリッド手術室 1 室を含む）、ICU/CCU10 床、HCU12 床で、麻酔科常勤医 9 名（指導医 7 名、認定医 2 名）、後期研修医 3 名で業務をおこなっています。

麻酔科管理症例は、別表に示す通り、心臓血管外科、胸部外科、食道手術、肝・胆・膵臓系手術、腎移植など、小児麻酔の症例は少ないもののほぼすべての科の手術の麻酔を行っており（緊急手術も年間 470 件あり）、多種多彩な麻酔症例を、数多く経験することができると思います。特に最近では、心臓血管外科手術（心臓手術、大血管手術、各種ステント手術すべて）が大幅に増加しています。またエコーガイド下の中心静脈穿刺、神経ブロックなども行っており、いろいろな手技の研修も可能です。

ICU 管理に関しては、各科管理が基本ですが、ベットコントロール、ICU 当直は麻酔科が行っており、緊急時対応、呼吸管理、鎮静など ICU 全般にわたりいろいろとかがかかわっています。このため外科系医師との連携はもちろんのこと、内科系医師（循環器や腎臓内科など）との連携も良好です。

ペインクリニック外来も、午後のみですが毎日おこなっています。

静岡市立静岡病院

指導医 望月利昭（1987年 浜松医科大学医学部卒）

綾部裕子（1988年 高知医科大学医学部卒）

公平順子（2000年 高知医科大学医学部卒）

1988年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 1684症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	28症例	14症例
帝王切開術の麻酔	67症例	34症例
心臓血管外科手術の麻酔	237症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	161症例	81症例
脳神経外科手術の麻酔	106症例	53症例

注：心臓血管外科手術の麻酔に関しては人員に余裕がある時は研修可能である

駿府城外堀と中堀の間にある旧三ノ丸に立地する病床数 506 床（ICU/CCU 8 床、GHCU 8 床を含む）手術室 8 室を擁する総合病院です。平成 27 年 4 月現在、常勤麻酔科医 3 名（指導医）と非常勤麻酔科医 4～5 名/日で別表のごとくの麻酔管理を行っております。当院の特徴として、心臓血管外科による開心術および大血管手術の手術数が全国有数レベルであること、および心疾患合併患者の非心臓手術が非常に多いことが挙げられます。しかしながら、麻酔前評価で全身状態の精査が必要と判断された場合には関連する内科系各科に気軽にコンサルトできる環境が整備されています。また外科、呼吸器外科、脳外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、口腔外科など各科とも症例数が多く、移植手術や小児の大手術を除いた殆どの外科系手術麻酔を担当できます。さらに麻酔科用の超音波診断装置が整備されており、超音波ガイド中心静脈穿刺および神経ブロックも施行可能な環境であります。

ICU/GHCU の管理は各科の医師が行っておりますが、手術時合併症発症の際は ICU/GHCU 当直医師の協力を得て術後人工呼吸管理を継続できるシステムも整備しました。現在のところ、手術麻酔の件数が麻酔科のマンパワーを上回っているため、4 年前より心臓血管外科、外科の全身麻酔症例の一部は自科麻酔をお願いし、麻酔科医として働きやすい環境の維持に努めています。また、時間外待機業務は麻酔科常勤医一人あたり 1 回/週に留めることを病院と確認しております。当院は浜松医科大学医学部附属病院及び京都大学医学部附属病院を責任基幹病院とする麻酔科専門医研修プログラムにも参加しておりますが、どの研修プログラムに参加した専攻医であっても当院研修中に待遇の差は一切ありません。

静岡市立清水病院

指導医：診療部麻酔科科長 森脇五六（1989年浜松医科大学卒）

2013年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 492症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	10症例	10 症例
帝王切開術の麻酔	36症例	36 症例
胸部外科手術の麻酔	4症例	4 症例
脳神経外科手術の麻酔	106症例	106症例

病床数 500 床の総合病院です。手術室は 10 室あり、平成 26 年度は麻酔科指導医 1 名、1 日平均 3 名の非常勤医師で手術麻酔管理を行い、初期研修医を 2 名受け入れています。手術麻酔管理は、心臓外科、小児外科以外の様々な症例を対象としています。特徴としては、外傷や腹膜炎、帝王切開等の急性期の手術や、高齢者や糖尿病、高血圧、狭心症等の合併症の多い患者を多く受け入れています。脊椎麻酔や硬膜外麻酔、エコーガイド下神経ブロック等の区域麻酔の症例が多いのも特徴の一つです。

非常勤医師の協力のもと、学会参加や発表のサポートも積極的に行っており、専門医取得の良い助けになると考えています。

静岡赤十字病院

指導医 中島芳樹（1987 年 浜松医科大学卒）

坂梨真木子（2001 年 浜松医科大学卒）

専門医 飯塚浩基（一般麻酔、ペインクリニック）

渡邊 薫（一般麻酔、胸部外科麻酔）

航 尚子（一般麻酔）

齊藤公昭（一般麻酔）



2006年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 3152症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	24症例	10症例
帝王切開術の麻酔	182症例	50症例
心臓血管外科手術の麻酔	84症例	20症例
胸部外科手術の麻酔	49症例	20症例
脳神経外科手術の麻酔	99症例	30症例

J R 静岡駅の北、歩いて 10 分の好立地にあります。現在病院の新築工事が行なわれており、2014 年 1 月に新病院の一部がオープンして、手術室もそちらに移りました。新手術室では麻酔器および生体モニターが一新され、以前に比較してかなり環境の整った手術室になりました。現在の手術室数は 7 室ですが、平成 28 年 1 月には 2 室増えることとなります。

この病院の特徴として、救急センターを有する 3 次救急病院に指定されているため緊急手術症例が多いこと（平成 25 年 整形外科手術数約 1300 例）、年間の麻酔科管理症例数が 3000 件を超えること、分娩取り扱い数が県内でも比較的多いこと（平成 25 年 帝王切開約 200 例）

などが挙げられます。麻酔科の常勤医師は6人おり、いずれも麻酔科専門医の資格を有しています。さらに平成25年からペインクリニック外来が始まり、神経内科とも連携して低髄圧症候群に対する治療も積極的に行っています。研修医向けに中心静脈穿刺シミュレータ、脊椎／硬膜外麻酔シミュレータ、挿管困難シミュレータなど教育用のシミュレータ、エコー下ブロック用ファントム等を積極的に用いて様々な手技の安全な習得を心掛けています。

富士宮市立病院

研修実施責任者 石井康博

指導医

専門医 石井康博（麻酔）

2014年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 1800 症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20 症例	10 症例
帝王切開術の麻酔	140 症例	70 症例
胸部外科手術の麻酔	20 症例	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	30 症例	15 症例

富士山の南西の標高120mに位置する病床数350床の病院の2階に手術室はあります。手術室の裏窓からは富士山を見ることができます。JR富士宮駅の真南に位置しています。常勤麻酔科医1名と非常勤医師により麻酔業務を行っております。映画館も併設された大型ショッピングセンターは歩いて2分です。市内ではB1グルメで有名な富士宮やきそばを気軽に食べられます。郊外に足を伸ばせば白糸の滝や朝霧高原から雄大な富士山を仰ぎ見ることが出来ます。せっかくなので夏は富士登山（7月1日～8月末日限定）に挑戦してみたいはいかがでしょうか？症例数（約1400件/年）は豊富で個人の希望に沿って選択できます。術後訪問で患者さんからの『昨日はありがとう』と言ってもらえる麻酔経験をどうぞ。

静岡県立こども病院

指導医 奥山克巳（1990年 福井医科大学卒業）

梶田博史（小児麻酔）

渡辺朝香（小児麻酔）

1979年麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 2807症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	1700症例	180症例
帝王切開術の麻酔	162 症例	15症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	341 症例	32症例
胸部外科手術の麻酔	19 症例	2症例
脳神経外科手術の麻酔	272 症例	25症例

静岡県唯一の小児病院として静岡県に限らず県外からも小児の専門的治療を必要とする患児が紹介されてきます。集中治療はNICU, PICU, CCU, MFICUと4つあり希望すれば小児集中治療研修も可能です。年間新生児手術件数は100件を越え、特に新生児心臓手術数が多いことが特徴です。常勤麻酔科医は小児には必要な検査時鎮静や小児科医に対する教育にも積極的に参加しています。当直体制を取っていますが、研修中は常勤麻酔科医がバックアップ体制をとっています。

市立島田市民病院

指導医 播岡徳也 (1976年 関西医科大学卒)

林 大 (2002年 旭川医科大学卒)

1988年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 1091 症例



	全症例	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	30 症例	8 症例
帝王切開術の麻酔	32 症例	9 症例
胸部外科手術の麻酔	90 症例	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	51 症例	11 症例

病床数は536床、手術室は9室、2014年の全手術件数は4,540件（麻酔科管理1,082件）です。平成27年4月現在、麻酔科には指導医1名と専門医1名、および後期研修医2名の計4名が在職しています。その他、非常勤医として3名の麻酔科専門医に主として週末の待期を依頼しています。統合されたICUはなく、病棟毎に重症管理室が運営されています。休診や診療制限中の科もありますが、整形外科の症例や小手術が多く、最近では神経ブロックを術中管理や術後鎮痛に多用しています。心臓外科など本院で研修困難な領域は、このプログラムを通じて他施設で研鑽を積んでいただきます。

後期研修や専門科の研修は将来にわたる専門領域の入り口ですが、一步間違えると“専門領域のたこつぼ”に陥る危険もあります。島田市民病院の特徴は、中堅医師や初期・後期研修医の経歴が多様にわたり、貴重な経験を重ねた医師が多いことです。また、当初より日本各地から研修医が集まり、その教育に実績をあげてきたゆえに、視野の広い専門医を育てようとする環境があります。さらに、各科とも単なる手技の修得のみならず、より科学的で合理的な医療を実践できる専門医の育成を目指しています（詳細は病院のHPをご覧ください）。

静岡県立静岡がんセンター

指導医 玉井直（麻酔、マネジメント、医療倫理、医療安全、集中治療医学）

江間義明（麻酔、周術期疼痛管理、胸部外科麻酔）

竹口有美（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア、小児麻酔）

専門医 安藤憲興（麻酔、救急、集中治療医学）

大塚仁美（麻酔、体腔鏡手術麻酔）

山下麻子（麻酔全般）

2004年 麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 3282症例



	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	7 症例	0 症例
胸部外科の麻酔	411症例	25症例
脳神経外科の麻酔	74症例	10症例

病床数 589 床（GICU14 床、緩和病棟 50 床を含む）、手術室は 13 室あり、平成 26 年の年間手術件数、麻酔科管理件数は別表の通りです。平成 26 年 12 月現在、常勤麻酔科医 7 名（指導医 3 名、専門医 3 名、認定医 1 名）、非常勤麻酔科医延べ 16 名／週のほか、外科系レジデント（ローテーション）が麻酔を担当しています。すべての領域のがんの手術が行われていますが、胃がん、大腸がん、肝胆膵がんの手術件数は全国有数です。体腔鏡下手術も積極的に行われて、平成 23 年末から手術支援ロボットダ・ヴィンチによる手術も始まり、2 台体制で直腸がん手術は国内 1 位、胃がん手術は同 2 位の手術件数があります。また分離肺換気を要する肺がんまたは食道がん手術も毎日複数行われています。歯科、循環器内科、リハビリテーション科とのチーム医療により、合併症のある患者にも適切な周術期管理が行われ、また症例数の多さと固定された外科スタッフにより手術が行われており、難手術でも手術時間は短く、術後合併症の発生頻度は少ないのが特徴です。

静岡医療センター

指導医 小澤 章子(1987 年 北里大学部卒)

統括診療部長、麻酔科部長、手術部長、集中治療部長

指導医 今津 康宏（麻酔、集中治療）麻酔科部長

1999 年麻酔科認定病院取得

麻酔科管理症例 1640 症例



	全症例	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	10 症例	0 症例
帝王切開術の麻酔	12 症例	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	110 症例	10 症例
胸部外科手術の麻酔	7 症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	10 症例	0 症例

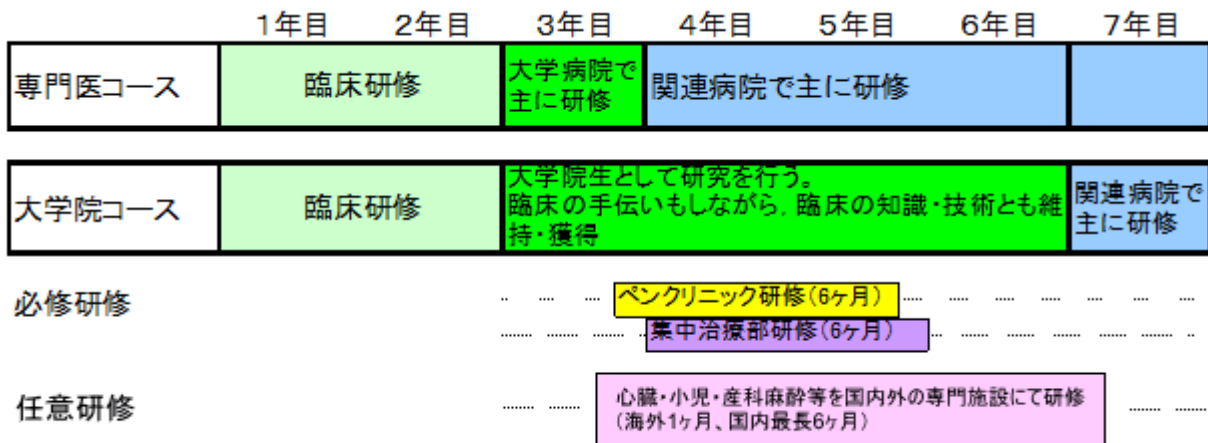
病床数は 400 床、手術室は 7 室、ICU は 10 床（GICU+CCU）で、麻酔科常勤医は 3 名（指導医 2 名、後期研修医 1 名）、非常勤医師は 1 日平均 1.5 名です。県麻酔科専門医研修ネットワーク

プログラムに参加する後期研修医 1 名が所属しており、ステップを踏んで、麻酔と全身管理を研修しています。

当院の特徴は次のとおりです。①麻酔管理症例は手術侵襲度が低い症例から高い症例へと段階的に担当するプログラムになっています。皆さんの習熟度に合わせていきます。②術式、患者背景が多岐にわたり、各種の麻酔方法、手技（硬膜外麻酔のみ、神経ブロックのみなど）と気道管理（マスク換気の徹底習得、器具や気管支鏡による挿管など）の研修が可能です。③周術期の患者の観察と管理を重視しています。術前～術中～術後を診ることで、侵襲が生体に及ぼす影響とその変化を知ることができ各種の病態への理解が深まります。④心臓大血管手術では、循環動態の評価、輸液の考え方、薬剤の使い方を研修します。⑤ICUは自動ドア 1 枚で手術室の隣にあり、手術着のまま靴をはき替えずに移動できます。ICUの運営は semi closed で、麻酔科は各科の主治医と連携をとって、一緒に全身管理を行っています。⑥研修では、まず一般麻酔で患者診察、評価と麻酔の考え方、手技などの基礎を学び、③、④、⑤の研修で各種のショックや緊急事態の評価と初期対応の習得を目指します。⑦手術室看護師は素直でチームワークがとてもよく、また院内の診療科は外科系、内科系ともに横の連携が非常に良好です。施設規模も中程度で職員のフットワークもよく、大変に働きやすい環境です。是非、見学に来てください。

7 研修期間

2つの基本コース



1) 専門医コース

卒後 3 年目	麻酔・蘇生学医局員（医員等）として手術麻酔管理を中心に主に大学病院で 1 年間研修します。
卒後 4～6 年目	<p>関連麻酔科認定病院（学会指定研修病院）で主に研修します。</p> <p>大学病院に一時戻る研修時期もあり、心臓・小児・産科麻酔等を国内外の専門施設で研修する事ができます(海外1ヶ月、国内最長6ヶ月)。<u>海外での学会発表も経験</u>できます。</p> <p>「集中治療部研修」，「ペインクリニック研修」各々6ヶ月。</p> <p>この期間に麻酔科標榜医および認定医を取得します。</p>
卒後 7 年目	<p>麻酔専門医認定試験を受験します。</p> <p>ペインクリニック認定試験を受験できます。</p> <p>希望者は、心臓麻酔専門医や集中治療専門医を目指します。</p>

2) 大学院コース

臨床だけでなく、臨床研究・基礎研究に興味があり、比較的短期間で医学博士号（課程博士）を取得したい方に向いているコースです。

卒後 3～6 年目	大学院生として研究を行います。時間の許す限り、臨床の手伝いもしながら、臨床の知識・技術とも維持・獲得しながら研究活動を行う。卒後 4 年目に麻酔科標榜医および認定医が取得できます。心臓・小児・産科麻酔等を国内外の専門施設で研修することができます（ <u>海外 1 ヶ月</u> 、国内最長 6 ヶ月）。 <u>海外での学会発表</u> を経験する。大学院を修了し学位を取得します。
卒後 7 年目	関連病院または大学病院で研修します。麻酔専門医認定試験を受験します。ペインクリニック認定試験を受験できます。希望者は、心臓麻酔専門医や集中治療専門医を目指します。

※個人の希望に応じて弾力的に運用しています。例えば卒後5年目からでも大学院コースへの移行は可能です。

国内外の専門施設における心臓・小児・産科麻酔等の研修

※海外での短期研修

専門医養成期間中に 1 ヶ月の海外研修を体験し、将来の海外留学の一助とすることができます。

仏国トゥルーズ大学ピュルパン病院, ラングイーユ病院 春（4月）秋（9月）

英国グラスゴー大学 随時

仏語に自信があればパリ市内数カ所の大学病院での研修も可能です。

※国内での短期研修

心臓・小児・産科麻酔（無痛分娩）等の専門分野の先進的な医療を行っている専門病院にて最長 6 ヶ月間の研修を行えます。

※海外での学会発表を経験

米国麻酔学会, 欧州麻酔学会, アジア・オーストラレーシアン麻酔科学会議などで発表出来るように指導医が完全サポートをします。

浜松医大麻酔科における麻酔科専門医研修の特色



高機能麻酔シュミレーター等を用いた臨床教育

今から15年前、浜松医大は全国に先駆けて高機能麻酔シュミレーターを導入いたしました

学生や研修医の教育に加え、シュミレーターを用いた教育法の開発も行っています



エコーを用いた中心静脈穿刺や末梢神経ブロック

近年、中心静脈穿刺や末梢神経ブロックでは、エコーを用いる事が標準となりました

シュミレーターを用いたエコーガイド穿刺の研修を定期的に行っています



無痛分娩・産科麻酔

5年前に無痛分娩チームを立ち上げて以来、症例数は増加の一途をたどっています

大学病院ならではのハイリスク分娩の麻酔も経験できます



心臓血管麻酔

大血管手術(人工血管置換・ステントグラフト)の症例数が豊富です

その他、冠動脈疾患、弁疾患の麻酔も数多く行っています



集中治療(ICU)

現在、集中治療部のスタッフは全て麻酔科医です

集中治療部では、術後合併症、敗血症、熱傷、急性呼吸不全、心不全や薬物中毒等、様々な疾患の治療に携わる事ができます



ペインクリニック

帯状疱疹後神経痛等の慢性疼痛や癌性疼痛の治療を学ぶことができます

漢方の勉強会を定期的に行い、疼痛に対して集学的な治療を積極的に行っています



救急医療

救急部の講師が麻酔科出身という事もあり、緊密な協力関係にあります。希望に応じて研修も可能です



海外研修

写真はフランスに無痛分娩の勉強に行ったときの一枚です。

英国でのICU研修や、ドイツでの麻酔シミュレーターの研修など様々な海外研修を行っています



国際学会での発表

国際学会での発表は、医師としての視野を広げモチベーションを高めます

もちろん指導医が完全サポート致します



働く女性を応援します

写真は先日、2010年度浜松医大ポリクリ感謝祭にて、当科が受賞した「女医が働きやすいで賞」です。実際にポリクリで当科を実習された学生の皆様からいただいた賞ですので、とてもうれしく思っています。

現在、助教1名を含む4名が産休・育休中です。女性の出産・育児とキャリア形成の両立を、これからも支援していきます。

男女を問わず、フルタイムで働く事が難しい方には、フレキシブルな勤務をしていただいております。

身分・待遇

大学病院	身分は医員です。入局3ヶ月以降は、関連病院に日勤の麻酔兼業が可能です。卒後4年目以降は、一人で麻酔を行えるようになれば関連病院以外でも日勤の麻酔兼業が可能となります。
大学院	医員に準じて関連病院などのアルバイトで収入を確保しています。
関連病院出向中	各病院の処遇に従います。

卒後7年目以降の進路について

麻酔科医の需要は急速に増加していますが、一方で供給が追いつかない状態です。

東海地方は全国的にも麻酔科医が最も少ない地区です。関連病院からは、常勤、非常勤にかかわらず麻酔科医派遣を常に要請されていますが、十分に応えられていないのが現状です。関連病院や部長・医長の派遣を依頼されている病院のほとんどが公立病院、あるいは準公的病院です

関連病院(部長・医長を出している病院) 2015/1/15 現在 (殆どから増員の要求があります)

静岡県	県西部浜松医療センター、聖隷三方原病院、遠州病院、浜松労災病院、浜松赤十字病院、磐田市立総合病院、中東遠総合医療センター、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡市立静岡病院、静岡市立清水病院、富士宮市立病院、藤枝市立総合病院
-----	--

独立型市中病院後期研修プログラムとの違い

研修中に各種の実験補助や、自らの研究を行い、海外での学会発表を経験できます。

邦文の症例報告から英文の論文作成までより十分な指導が受けられます。

大学院で大学院博士号が取れます

専門医コースでも時間は少しかかりますが臨床の合い間に研究を続けて論文博士号を取ることが可能です。

後期研修終了後の就職・赴任先などに心配がありません。

専門医取得後のスキルアップ研修

1. DAM 実践セミナー



日本医学シミュレーション学会(JAMS :Japanese Association for Medical Simulation)とのタイアップによるスキルアップ研修～優れた指導医を養成

浜松医大では、JAMS の理事 4 名を輩出しています。JAMS の主催する各種セミナーを、国内最高水準の講師陣の指導のもとに受講することができます。同時に指導方法を学ぶ事ができ、優れた指導医を養成します。JAMS のセミナーは、全国医療安全共同行動”いのちをまもるパートナーズ”の公認セミナーでもあります。

2. HPS セミナー



JAMS 主催の各種セミナー

1. DAM実践セミナー

気道確保困難症例に対する戦略・治療を学ぶ高機能型シミュレーターを使用した実践トレーニング。ハンズオントレーニングとシナリオトレーニングを行う

2. 高機能患者シミュレータ(HPS)セミナー

高機能型シミュレーターを使用し、各種危機的病態(アナフィラキシー、肺塞栓症、急性薬物中毒、熱中症など)を再現し、その診断・治療を学ぶセミナー

3. CVC セミナー

中心静脈穿刺を安全に行うための基礎的知識の習得と、シミュレーターを用いたハンズオントレーニング 若手医師のための実践セミナーと、専門医のための指導者養成コースがある

4. その他、MET (Medical Emergency Team training) セミナー、研修医セミナー、セデーションセミナーなど

3. CVC セミナー



8 プログラム参加の要件

詳細は浜松医科大学麻酔科HPから問い合わせてください。

<http://www.anesth.hama-med.ac.jp/Anedepartment/index.asp>

9 処遇

原則として、各病院の常勤医として採用する。

10 プログラム修了後の進路

プログラム参加病院での継続雇用、大学院進学、麻酔科専門医を取得するための継続研修等、各人の要望に応えるように努めます。

11 プログラム運営委員会

大学病院にて適宜開催。

12 その他

詳細は麻酔科HPから問い合わせてください。

<http://www.anesth.hama-med.ac.jp/Anedepartment/index.asp>